

令和元年度 学校評価表

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	<小学部> 学部研修やケース会を通して、児童個々の実態とニーズに応じた個別の指導計画立案と教職員が連携した授業実践ができる。	① 個別の指導計画(後期目標)の中から、教員が一人1事例選定し、その指導目標の達成率8割以上の評価が、小学部全体で8割以上となる。	① 指導目標の達成率8割以上の評価が9割を超え、97%であった。	(評定)A (所見) 研修やコンサルテーションを通して、新しい知識や指導方法を得ることができた。また、学部全体で実施したことで、共通理解のもと児童の指導に活かすことができた。 随時話し合いをすることで、指導目標の確認や共通理解、授業改善の相談などができ、個々に応じた課題を設定することや教員の統一された指導に繋げることができた。 児童が意欲的に課題に取り組む姿や友だちを意識する姿が多く見られるようになった。		肢体不自由教育、特にからだの指導における教員の専門性をどう育てていくかが、課題である。 専門講師の招聘事業や研修会の活用、専門性の高い教員の授業編成など取り組みたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 学部研修や専門家によるコンサルテーション等を年間4回以上実施し、障がい特性や支援方法について研修する。 ①-2 個別の指導計画に関する検討会を「ケース会」として、各学級や学習グループ毎に前後期各2回以上実施し、発達段階とキャリア教育発達内容表に基づく目標設定と授業内容の充実を図る。	①-1 出張報告会やコンサルテーションの研修を年間4回以上実施することができた。 ①-2 個別の指導計画に関するケース会を全ての学習グループで前後期各2回以上実施はできなかった。しかし、授業内容や指導方法についての話し合いは、随時、学級や学習グループで行うことができた。			
<中学部> 個々の教育的ニーズを踏まえた個別の指導計画を立案し、個々に応じた望ましい行動を育てることができる授業実践を行う。	① 個別の指導計画(後期目標)の中から、教員が一人1事例選定し、その指導目標の達成率8割以上の評価が中学部全体で8割以上となる。	① 選定した指導目標において、達成率8割以上の評価は中学部全体で97%であった。	(評定)A (所見) ・今年度も「安心して、自信を持って、楽しく過ごせる学校(学部)をつくる」を目的に、それぞれの教員が実践したことを全体で共有することができた。教員が一人1事例選定した指導目標の達成率についても、今回は場面設定をできなかったこともあり、昨年度よりも評価指標がかなり上がった。 ・学部全体で取り組むポジティブな登校支援においては、不登校の生徒4事例中3事例で登校率の上昇に繋がった。特別支援教育学会の分科会で成果を報告した。 ・ポジティブな行動支援においては、中学部全員で「行動目標設定表」を作成し、目指す生徒像を共有することができた。		日々の指導において、ポジティブな支援を継続しながら、次年度もコンサルテーション事業を活用し、専門家のアドバイスを全ての教員が受けることで、学部全体の専門性の向上を図る。 「行動目標設定表」を用い、学校全体で取り組むポジティブな行動支援(スクールワイドPBS)の視点で指導を行う。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 グループに分かれて、個別の指導計画(後期目標)の中から、教員が一人1事例選定した目標について、個々に応じた称賛や承認を行うことで望ましい行動を育てることができたかどうかをグループで話し合い、全体で情報共有を行う。 ①-2 教員がポジティブな登校支援・行動支援が実施できるよう専門家による研修会を実施する。	①-1 教員が一人1事例選定した後期目標について、目標が達成できたかどうか、毎時間記録をとっていった。1月終わりに、「◎できるようになった(達成度8～10割程度)」「○できることが多くなった(達成度6割～7割程度)」「△できるようになってきた(達成度2割～5割程度)」「□できなかった(達成度0～1割程度)」「未(未実施)」等、評価内容のアンケートを取り全教員で確認した。 ①-2 学部全体で取り組むポジティブな登校支援の事例検討会を実施した。ポジティブな行動支援の事例研修では、中学部全員で「行動目標設定表」を作成した。大阪樟蔭女子大学の田中善大先生から御指導頂いた。			
<高等部> 個々の教育的ニーズや進路希望に応じて、キャリア教育の視点を踏まえた個別の指導計画の立案及び就業体験の実践ができる。	① 個別の指導計画での3領域における年間目標のキャリア教育の視点について、各領域の最重要課題となる一項目をピックアップし、その達成率8割以上の評価が高等部全体で8割以上となる。	① 個別の指導計画(年間目標)の3領域(健康・身体、学習、社会生活)における重要課題の評価を各生徒に対して行い、達成度について数値化した。その結果、高等部全体における達成率は80%の評価であった。各領域別の達成率は、健康・身体81%、学習84%、社会生活74%であった。	(評定)A (所見) 個別の指導計画の作成において、3領域での年間目標とする重要課題を立案し、その達成に向けた取組や手立てを計画的に実践してきた。優先的な課題の取組や手立てが効果的であったと考えられる。本校の特色でもある知的・身体・病弱の3つの障がい種によって、評価の違いがクローズアップされた。不登校傾向の生徒の場合では、社会生活に関する教育機会の継続が難しい面があり、そのことが評価の達成率に影響したと考えられる。今後不登校生徒への適切な支援は重要課題である。高等部という発達段階では、卒業後の進路を見据えたスムーズな移行支援が重要であり、そのための課題に対して優先的に取り組むことが効果的かつ有効的であるといえる。		不登校生徒について、学部内で共通理解を図り、適切な支援の継続ができるように取り組む。 高等部教員の進路に関する専門性を高める研修や情報提供の機会を積極的に行い、生徒の進路決定につながるようフィードバックを行う。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		① 個別の指導計画を立案する際のキャリア教育の視点について、各クラスにおいて検討会を前後期各1回行う。 ② 就業体験の事前学習を行い、振り返るための事後学習となる就業体験報告会を2回行う。 ③ 学部研修において障害者総合支援法や進路先(就業体験)の事業内容に関する研修を1回実施する。 ④ 学校コンサルテーション を活用し、アドバイザーによる事例研究を1事例実施する。	① 各クラスにおいて検討会を前後期各1回行うことができた。 ② 事前学習はクラス単位で行い、就業体験報告会は作業班での実施も含め、4回行うことができた。 ③ 学部研修において、福祉サービスの内容や進路先の事業内容に関する研修を2回実施することができた。 ④ 学校コンサルテーションでのアドバイザーによる事例研究を1事例実施することができた。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	<教務課> 効果的な指導ができるよう、教育課程の実施状況を評価し、改善につなげる。	① 本年度の年間指導計画について、それぞれの教育課程ごとに年間2回の検討を行うとともに、年度末に1回教育課程の評価アンケートを実施する。	・夏季休業後、冬季休業後の2回各学部で年間指導計画の検討を行った。 ・教育課程の評価アンケートは、各学部で2～3月に実施予定。	(評定)B (所見) 年度途中で年間指導計画の検討を行うことで、実施した指導を振り返り、実施状況を確認するとともに、次年度も含めた今後の指導に対する修正・改善の視点を持つてもらうことができた。 指導内容の妥当性や系統性についての評価にまでは至っていない。 教育課程の評価のアンケートはまだ未実施である。次年度へのアンケート結果の反映のための検討時間を考慮して、例年より早めに実施予定。		新学習指導要領に基づき、3障がい種の児童生徒の特性に応じた教育課程の見直し及び授業の計画・実施・評価・改善の仕組み作りと実施が課題である。
		活動計画	活動計画の実施状況			
	<特別活動課> 児童生徒がよりよい人間関係を形成し、豊かな学校生活を実現するための特別活動教育を推進する。	① 体育祭・文化祭において、児童生徒の発達段階をふまえた活動計画になるよう、検討会(課会を含む)を各4回以上実施する。 ② 児童生徒会活動を活発に行うために、学部ごとに活動計画を立てて実践する。	① 担当者会、課会の形で検討会を実施した。体育祭・文化祭とも4回以上行った。	(評定) A (所見) 児童生徒の実態の変化に対応した行事計画を立案し、実践することができた。 校内での行事に関しては、概ね活動計画の通り実施することができた。行事後には検討し、次年度に向けての課題をまとめることができた。 体育祭については、天候の影響も有り、今年度も十分な練習の時間がとれなかった。		体育祭・文化祭の実施時期・実施内容について、毎年検討を重ねよりよい方向性を探っていく。 校外の行事、学部行事との兼ね合いを考えた学校行事の設定について考えていく。 年度途中で急に入ってくる行事もあるため、行事の精選を考えていく。
		活動計画	活動計画の実施状況			
	<研究課> 障がい種別毎の研修会や事例研究、専門家によるコンサルテーションを計画し実施することによって、一人一人の実態に応じた個別の指導計画の立案・実践を図る。	① 各学部において、各教員、障がい種別、グループもしくは学部全体で、学部の目標に応じた事例研究や研修会を10回以上実施する。 (「特別支援学校コンサルテーション」において、各学部1事例以上の事例研究実施を含む。)	① 各学部において事例研究や研修会を小学部では11回、中学部では16回、高等部では11回実施した。	(評定)A (所見) 今年度、初めての取り組みとして、学部を超えた障がい種別研修やeラーニング研修を実施した。障がい種別研修は、1回しか実施できなかったが、参加した教員から自分が知りたいニーズに合っていると高評価を得た。eラーニング研修においても、自分の好きな時間に研修できるため、働き方改革にもつながった。 各学部の研修においては、前年度と引き続きの研修を実施した。支援方法や卒業後の進路等について研修を行い、共通理解をはかることができた。 中学部においては、学部全体で取り組むポジティブな登校支援の研究を実施した。不登校の生徒5事例中4事例で登校率の上昇につながった。特別支援教育学会の分科会で成果を報告した。 学校コンサルテーションを活用することで、アドバイザーの専門的な指導助言を受け、専門性の向上を図ることができた。また、全体研修会を行うことで、校内において共通理解を図ることができた。		効果的、効率的な研修を実施するため、学部を超えた障がい種別研修やeラーニング研修を次年度も継続して実施する。次年度もコンサルテーション事業を活用する。事例研究を各学部で実施し、専門家の指導助言を受ける機会を広げ、専門性の向上を図る。 コンサルテーションの校内担当リーダーや研修会で講師を行うことができる教員が限られており、専門性のある教員の育成が課題である。 個別の指導計画の様式の変更や文言の統一等による周知を行うため、個別の指導計画の研修会を各学部で4月早々に実施する。 個別の指導計画のマニュアルや様式の見直しを行うため、個別の指導計画検討委員会を年1回実施する。
		活動計画	活動計画の実施状況			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	〈進路指導課〉 各学部、寄宿舎、保護者との連携を図り、必要な情報の共有や、一貫性のあるキャリア教育を推進する。	① 教職員・保護者・生徒に対して進路に関する情報や資料を提供する研修・説明会・報告会・体験活動を行い、アンケートを実施する。アンケート項目のうち「情報や資料が進路選択、指導に役に立つ」という項目で充実度(満足度)を90%以上得る。	①アンケート集計結果を見ると99%が「とても良かった」「やや良かった」の評価であった。(3説明会・研修会の合計88名中87名、無回答1名)。ニーズに応えることができたという指標だと感じた。	(評定) A (所見) 高等部での作業学習の見学及び体験、すだちプロジェクトでは、昨年度実施できなかった会社見学も実施でき、継続した取り組みを行うことができた。各学部、寄宿舎における共通したテーマを持って実施することで、今後も一貫性のあるキャリア教育を推進していきたい		・進路に関する指導により一貫性を持たせるため、校内実習の拡充や、進路担当者による授業の定期的な実施、キャリア発達内容表のより有益な活用を図りたい。 ・研修では、外部の事業所の内容を知ることや福祉の制度について、ニーズの高さがうかがわれるとともに、ニーズに応えることができたと感じた。継続して研修を続けていきたい。次年度も、さらなる活動内容の工夫を検討し、発展的なものとするために進路指導課で協議を深める必要がある。
		活動計画 ①-1 教職員(各学部・寄宿舎)や保護者対象研修は、年間7回以上実施する。(働くための準備や資質、障がい福祉や障がい者雇用に関する法規、事業所に関する情報提供研修会・説明会) ①-2 児童生徒対象の報告会、体験活動を年間10回以上実施する。(就業体験報告会、ショートジョブ活動・ジョブジョブ探検)	活動計画の実施状況 ①-1研修会は計画より多く、年間8回実施している。教職員への事業所情報提供や障がい者福祉制度の説明は特に関心が高かったと思われる。 ①-2報告会は年間4回、体験活動を小学部から2回、中学部から2回、学校全体で会社見学会を1回実施している。ほぼ計画通り実施できた(夏期休業日に登校日がなかったため、1回報告会が減っている)。			
〈自立活動課〉 児童生徒の実態を各教員が的確に把握し、そのニーズに対応した適切な指導ができる。	① 自立活動指導検診での専門医による助言を受け、後期の個別の指導計画に活かし「運動・動作1」の学習目標の達成度が6割以上となる。 ② 社会人講師(PT・OT・ST)の活用についてアンケートを取り、7割以上の肯定的評価を得る。	①-1 自立活動指導検診は、受診予定50名中欠席5名であった(受診率90%)。 ①-2「運動・動作1」の後期目標の達成率は、後期の指導計画に「活かされた」が95%(37/39)、目標達成度が100%(39/39)であった。 ②社会人講師活用についてのアンケート結果は、95%(123/129)の肯定的評価を得られた。(※PT・OT・STのいずれかの授業に対して肯定的評価をした教員数÷PT・OT・Sの授業を受けた総数)	①-1自立活動指導検診は、受診予定50名中欠席5名であった(受診率90%)。 ①-2「運動・動作1」の後期目標の達成率は、後期の指導計画に「活かされた」が95%(37/39)、目標達成度が100%(39/39)であった。 ②社会人講師活用についてのアンケート結果は、95%(123/129)の肯定的評価を得られた。(※PT・OT・STのいずれかの授業に対して肯定的評価をした教員数÷PT・OT・Sの授業を受けた総数)	(評定) (所見) 「自立活動指導検診の助言を後期の個別の指導計画に活かされた」と回答した教員が95%で、「運動・動作1」の学習目標の達成度が100%という結果であった。 前年度と比較すると、昨年度は「活かされた」が64%で、目標達成度は74%で、それぞれ31ポイント、26ポイント昨年度より高くなった。②の社会人講師活用に関しての比較でも、昨年度は74%の肯定的評価であり、21ポイント上回った。 設定した目標はいずれも達成できており、昨年度より全体として肯定的評価の割合が上がった。		身体の動きに関する指導については、整形外科専門医の指導・助言を受けることが必要との通達・指示が徳島県教育委員会から出されており、引き続き対象児童生徒に対して自立活動指導検診の受診を計画する。 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の専門家(社会人講師)による指導・助言を受ける授業の計画を引き続き計画する。
		活動計画 ①-1 専門医(ひのみね療育センター阿部Dr.)に指導場面を実際に見てもらい、安全性と指導内容の有効性を確認する。 ①-2 助言内容を後期の個別の指導計画に取り入れ、指導する。 ②-1 社会人講師の年間来校予定を周知し活用を呼びかける。 ②-2 年度末にアンケートを実施する。	活動計画の実施状況 ①-1指導場面を実際に見てもらい、安全性と指導内容の有効性が確認できた。 ①-2助言内容を指導計画に取り入れ、指導した。 ②-1社会人講師年間来校予定日を4月上旬の学部会で周知した。 ②-2自立活動の授業者・対象児童生徒の担任(全校で84名)にアンケートを実施した(1月下旬)。			
〈図書課〉 読書活動の推進により、児童生徒の豊かな心を育む。	① お話を各学部で行い、終了後のアンケートで、「とても楽しかった」と答える児童生徒が40%を超える。	①-9、10月に各学部でお話会を行うことができた。 ・児童生徒対象のアンケートで「とても楽しかった」との回答が小学部50%、中学部65%、高等部59%となり、各学部で40%を超えることができた。	①-9、10月に各学部でお話会を行うことができた。 ・児童生徒対象のアンケートで「とても楽しかった」との回答が小学部50%、中学部65%、高等部59%となり、各学部で40%を超えることができた。	(評定)A (所見) 多くの方々の協力を得て各学部でお話会を実施することができた。アンケートでは児童生徒から「楽しかった」「とても楽しかった」という評価を多く得ることができ、「楽しかった」を含めると各学部で90%を超えていた。 移動図書室、図書室壁面クイズ、図書放送などの実施も行い、読書活動や図書室利用への啓発に努めた。		
		活動計画 ①-1 各学部で図書課員を中心に、児童生徒の実態を踏まえてお話会の計画を立てて実施する。 ①-2 お話会終了後に児童生徒対象のアンケートを実施する。	活動計画の実施状況 ①-1課会で考えた計画を学部会で提案し、各学部で図書課員を中心に児童生徒の実態を踏まえて検討し、お話会の計画を立てることができた。 ①-2お話会終了後に児童生徒対象のアンケートを各学部で実施することができた。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
安心安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。	<寄宿舎> 寄宿舎における防災教育の取り組みを推進する。	① 各舎生の実態を把握する。 ② キャリア発達内容表「Ⅲ社会生活」(能力:かかわる, 系列:②集団参加)の視点を取り入れた活動を計画する。 ③ 防災に関わる舎内研修を年1回以上行う。	①-1 防災オリエンテーション及び避難訓練を通じて、舎生全員の実態把握を行った。 ①-2 舎生全員に対して、「Ⅲ社会生活」の視点を取り入れた活動を計画した。 ①-3 防災に関わる舎内研修を2回実施した。	(評定) A (所見) あらゆる場面で適切な避難行動がとれるよう、想定を食事中にするなど工夫して訓練を実施した。 ・個々の舎生の実態に応じた防災体験活動を行い、防災意識を高めることができた。 東日本大震災で被災した支援学校の事例をもとに、大規模災害時の初動対応から学校再開までの取り組みについて学び、寄宿舎としての対応を考えたり、課題に気づいたりすることができた。 今年度より夜間のタイムライン(避難後行動計画)作成をすすめている。 板野署の協力を得て、実践的な不審者対応訓練を実施することができた。 警察のアドバイスを受けて、施設面の防犯対策を行った。		寄宿舎における防災教育の取り組みを推進する。<特にタイムライン(避難後行動計画)の作成>
		活動計画 ① 防災オリエンテーションや避難訓練を行い、実態把握を行う。 ② 舎生の実態を踏まえ、「Ⅲ社会生活」(能力:かかわる, 系列:②集団参加)の視点を取り入れた活動を実施し、活動の検証(成果・課題)を行う。 ③ もっと!「まなぼうさい教室」防災出前授業を活用し、夏季休業中に舎内研修を実施する。	①-1 防災オリエンテーション(4月)、避難訓練(年3回)を実施した。 ①-2 生活プロジェクト活動に「Ⅲ社会生活」の視点を取り入れ、活動記録シートで活動の検証を行った。 ①-3 寄宿舎防災研修及び不審者対応訓練を8月に実施した。			
<総務課> 防災教育を中心とした危機管理体制の見直しと充実を図る。	① 学校防災計画の見直しを図る。 ② 学校安全の日を設定し(毎月20日)、総務課員を中心に異常・危険箇所発見時の通報システムの周知徹底を確立する。 ③ 年3回の避難訓練を実施し、PDCAサイクルの中で防災意識の向上を図る。	① 学校防災計画の見直しを図る。 ② 学校安全の日を設定し(毎月20日)、総務課員を中心に異常・危険箇所発見時の通報システムの周知徹底を確立する。 ③ 年3回の避難訓練を実施し、PDCAサイクルの中で防災意識の向上を図る。	① 県教委の指針に沿ってマニュアルを見直す。 ② 学校安全の日に各教室の異常・危険箇所を月1回点検する。 ③ 保護者引き渡し訓練を含め年4回の避難訓練を実施する。	(評定) A (所見) ・課会において学校防災計画について検討会を行った。県のマニュアルをもとに見直しを図ることができた。 ・学校安全の日に点検を実施したことにより、不具合箇所の報告が迅速な修繕や改善へつながった。 ・年3回の避難訓練を実施するとともに、とくしま教育の日において防災授業を実施し、同日に保護者引き渡し訓練をおこない、困り感や改善点を共有できた。		防災関係について、今後も避難訓練を定期的に企画するとともに、非常時の持ち出物の確認や非常食賞味期限の確認を行いたい。 安全点検を継続して実施し、職員全体で安全に対する意識向上に努めたい。 高等部作業班と連携し、校内の環境美化に努めたい。
		活動計画 ① 防災計画を見直す。大地震への対策について具体的に提示する。 ② 毎月20日を学校安全の日として、職員朝礼で職員全体に周知を図る。 ③ 年3回の各避難訓練において課題や困り感を明確にし、マニュアルを見直すことで、教職員の理解を深めるとともに、児童生徒に自分の命を守る教育の充実を図る。	① 全国一斉緊急地震速報訓練や地震避難訓練を実施し、児童生徒に応じて必要物等を点検した。 ② 定期点検後、管理職に報告し、処置を行った。 ③ 年3回の各避難訓練を実施するとともに、とくしま教育の日において防災授業を全学部で実施し、防災に関する意識を高めることができた。			
<生徒指導課> 児童生徒の安全に対する意識と通学時のマナーやルールを守る態度の向上を図る。	① 自転車通学生と公共交通機関利用者対象に通学指導を実施し、事故ゼロを目指す。	① 自転車通学生と公共交通機関利用者対象に通学指導を実施し、事故ゼロを目指す。	① 自転車で畑横の溝に落ちるという自損事故が1件あった。	(評定) A (所見) 交通安全の日に集会や立哨指導などを行い、安全に配慮した指導ができ、自転車通学生の交通安全に対する意識を高めることができた。児童生徒にわかりやすい交通安全教室を開催し、交通マナーやルールを学ぶことができた。自転車通学生の自転車整備に関する意識が向上した。結果、安全に通学することができた。		引き続き、定期的な交通安全集会や立哨指導を実施し、通学時の交通事故0件を目指して取り組む。
		活動計画 ①-1 学校安全の日に、交通安全に関する集会を実施する。 ①-2 校門前と交差点の2カ所で立哨指導を行う。 ①-3 交通安全教室を実施する。 ①-4 自転車通学生には、毎月自転車点検を実施し、不備がある場合は早急に修理等するよう促す。	1-① 学校安全の日を基本に毎月1回、交通安全に関する集会を実施し、啓発と指導を行った。 1-② 学期始めや学校安全の日など、校門前と交差点の2カ所で立哨し、交通安全指導を行った。 1-③ 交通安全教室を実施し、交通ルールやマナーを再確認した。 1-④ 毎月自転車点検を実施し、自転車の安全な走行ができるように指導した。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
安心安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。	<人権教育課> 自分の人権を守り、他者の人権を尊重する人権意識を育て、実践行動を啓発する。	① 校内研修及びPTA研修を年間に各1回以上実施する。 ② 「人権の日」「板野支援学校人権週間」において啓発の広報、情報提供をする。 ③ 校外の人権教育研究会等参加後の研修報告を周知する。	① 校内研修及びPTA研修を各1回実施した。 ② 毎月の「人権の日」、12月の「板野支援学校人権週間」において実施した。 ③ 学期に1回、研修報告を回覧した。	(評定)A (所見) 教職員研修では、「女性の人権と子育て」という演題で講演していただき、女性の人権を考え、家庭内での言動を振り返るきっかけとなった。 PTA研修では、災害時の人権について講演いただき、保護者の意識を高めることができたと考える。 毎月の「人権の日」には、高等部生徒会や人権委員を中心に挨拶運動等を継続実施した。壁面を活用した掲示板で広報したり人権クイズ等を実施したりして啓発活動により人権教育が身近なものになったと考える。 研修参加報告が簡潔になり、回覧もスムーズに行えた。		「人権の日」の活動について、ホームページにアップする等、啓発のためにさらに広報の仕方を考えていきたい。 人権教育計画や実施報告等を再考し活用しやすい形に変えていきたい。 教職員へのアンケート等により研修内容や授業の取り組み等に参考になる情報を提供していきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 12月に教職員対象に校内研修を実施する。 ①-2 保護者主催のPTA研修において情報提供する。 ②-1 人権の日に、「じんけん」配付や人権クイズなどで、児童生徒・保護者への啓発を行う。 ②-2 児童生徒の人権教育や人権活動への指導支援を行い、「じんけん」等で実践行動を広報する。 ③-1 学期毎に研修報告書を回覧し、場合によっては、各学部で報告会を行い周知する。 ③-2 校内外研修のアンケート結果等を周知する。	①-1 人権教育指導員派遣事業を活用し、12月に校内教職員研修に講師を招いて講演を実施した。 ①-2 渉外課との連携により、PTA研修において人権教育指導員派遣事業を活用し実施した。 ②-1 毎月人権の日に、「じんけん」配付や人権クイズなどで、児童生徒・保護者への啓発が行えた。 ②-2 「じんけん」紙上で高等部の活動を広報した。 ③-1 学期、2学期末に各学部で研修報告書を回覧し周知した。 ③-2 「じんけん」紙上でアンケートをとり結果を発表した。			
重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
安心安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。	<保健課> 事故予防と安全対策の向上を図り、児童生徒の命と健康を守る。	① 年間5回以上事故予防と安全対策の研修及び訓練を実施する。 ② プールの適切な管理、安全な使用に努める。 ③ インシデント報告会で出された問題点について、改善策を決定し、教職員に周知徹底する。	① 救急法実技講習、各学部・寄宿舎による緊急対応訓練、てんかん発作時の座薬挿入研修、感染症予防研修、医療的ケア研修を年間5回以上実施することができた。 ② 1日3回以上プールを巡回し、適切な管理、安全な使用に努めた。 ③ 改善策や注意点を話し合い、教職員に周知徹底することができた。	(評定)A (所見) 複数回の研修会・訓練の実施、養護教諭を中心とした啓発活動・協議を行うことで事故予防と安全対策の向上を図ることができた。		担当する児童生徒の障がい・身体・健康の状況と医療的ケアの情報を確認するように全教職員に周知徹底を図る。 全教職員に協力を呼びかけ、情報交換を密に、プールの適切な管理、安全な使用に努める。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 4月に全教職員を対象に救急法実技講習会を行う。 ①-2 5月に各学部毎に2～3事例の緊急対応訓練を実施し、協議を行う。 ①-3 6月に感染症予防研修会を行う。 ② プール当番を毎日おき、水質状況を適切に保つとともに全教職員に協力を呼びかけ、環境整備に努める。 ③ インシデント報告会を各学部毎に年間2回実施し、問題点を報告して協議を行う。	① 4月17日に救急救命士と消防署員を講師として、AEDを使用した心肺蘇生法・背部叩打法・止血法・エビベン使用の実技を行い、疑似体験することができた。 ①-2 各学部2事例、寄宿舎6事例の緊急対応訓練を実施することができた。実施後協議会を実施し、緊急時における教職員の連携向上を図ることができた。 ①-3 6月5日に感染管理認定看護師を講師として研修会を行い、感染症予防のポイントについて知ることができた。 ② プール当番を毎日おき、1日3回以上の塩素濃度測定、用具の安全確認等を行った。全教職員に協力を呼びかけ、環境整備に努めることができた。 ③ 7月と12月に各学部毎に実施し、課会で問題点を協議した。その結果を企画運営委員会で報告し、その後、各学部にも周知した。改善策を全校で共通理解することができた。			

	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
保護者・関係機関及び地域との連携を強化し、開かれた学校づくりに務める。	<渉外課> 防災に関することについて、保護者と連携し情報共有を図る。	① 保護者引き渡しカードについてすべての保護者に知らせる。 ② 防災についての保護者研修会を、1回以上実施し、非常食や災害対策備品等の備蓄品を増やす。	①PTA便りと10/29(火)「とくしま教育の日」における防災教育公開授業の案内文書でお知らせすることができた。 ②11/1(金)PTA防災講習会を実施した。非常食や災害対策備品は、現在の備蓄状況を鑑みながらさらにベルマークやバザーの売り上げで拡充予定である。	(評定) A (所見) 10/29(火)の地震避難訓練後、希望保護者による実際の児童生徒引き渡し訓練を実施することができた。 保護者引き渡しまで、児童生徒が学校待機となることを受け、防災備蓄品について、総務課や事務室と連携しながら課内で検討会を行った。 保護者との情報交換により、災害対策備品等の備蓄品を増やすために、ベルマーク収集活動の啓発を行った。 今年度も、文化祭バザーの収益で防災備蓄品を増やせる予定である。 2/7(金)河川氾濫時の基本対応について、保護者の方に児童生徒の避難訓練を見学していただくことができた。	災害時には、本校が福祉避難所としての役割を果たすことも考えられ、地域と連携して取り組む必要がある。地域公開の本校文化祭でのPTA主催バザーや非常食コーナーを通して、地域の方に来ていただき理解を深めているが、更に啓発に努めたい。 非常食や災害対策備品等の備蓄品を毎年増やしているが、児童生徒数に対して十分ではなく、更に計画的に増やしたい。 非常食や災害対策備品等の備蓄品が増加するため、その保管場所等の確保が課題となる。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
	<情報課> 学校ホームページの承認システムの整備を行い各担当部署の積極的な記事の記載へ向けての支援を行う。	①ホームページに掲載する記事の承認の流れを整備し、各記事を作成する学内の担当部署が他部署の掲載状況を意識して積極的に記事記載を行う環境を整備する。	①紙媒体における承認システムを作成した。実際の運用は次年度から行う。	(評定) B (所見) 取りかかりが遅く年度末にシステムができあがり、本年度実施に至らなかった。ネットワーク関係やパソコンの不具合やソフト導入等の手続き等業務内容が多くその対応に苦慮した。 HPの更新等にまで支援ができなかった。	作成したシステムを使用し、スムーズなホームページの更新を図るとともに、情報機器がストレスなく使用できるように今後も総合教育センターと連携を密に行っていく必要がある。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
特別支援課	<特別支援課> 地域の幼小中学校等における特別支援教育の充実と教職員の教育力の向上を図る。	①地域の要望にあった内容の研修会を2回以上実施し、2回の研修会とも参加者の8割以上から「今後の支援に生かせる」との評価を得ることができる。	①研修会を2回実施した。両研修会とも8割以上から「今後の支援に生かせる」との評価を得た。アンケートでは、今後も同様の研修を希望するとの記載が多くあった。	(評定)A (所見) 地域支援のひとつとして、講演会を計画しているが、今年度は、関西国際大学の中尾繁樹教授をお招きして行った。「発達障害を感覚運動の視点でとらえる」の演題で幅広い内容・実技を取り入れた講演であった。参加された保育所、幼稚園、小学校、中学校、支援学校のすべての先生から「今後を生かせる」との評価を得た。地域のコーディネーターを対象とした研修会では、講演会の後に参加者同士の情報交換の会を持っている。研修後のアンケートで、講演内容だけでなく、「近隣の先生方と同じような悩みを話し合うことができてよかった」等の感想も多数あった。	今年度の研修後のアンケートで、多くの参加者から、次年度も同じ講師の話が聞きたいとの希望が多くあった。ご多忙の講師ではあるが、次年度も依頼を試みる等、ニーズに沿った内容の研修会を計画し、地域の幼小中学校等における特別支援教育の充実と教職員の教育力の向上を図っていき	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 近隣校からの希望を生かした研修内容を計画する。 ①-2 研修会を充実させるため、他の課に連携を依頼する。 ①-3 HPやメールを活用して研修を広報する。 ①-4 参加希望者から事前に質問事項を聞き、講師にお伝えしておくことで、当日の内容にできるだけ反映していただく。 ①-5 講演会後にアンケートを実施する。	①-1 昨年のアンケート結果を生かして実施した。 ①-2 実施に当たっては、自立活動課や、研究課、情報課に協力を得ることができた。 ①-3 HPやメールを活用して研修を広報した。 ①-4 参加希望者からの質問事項を事前にお伝えできた講演と、できなかった講演があった。できなかった講演については、講演依頼時に希望する講演内容を細かくお伝えして依頼した。 ①-5 講演会後にアンケートを実施した。			

	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
業務改善やワークライフバランスの推進に努め、風通しのよい職場づくりをすすめる。	<生徒指導課> バス業務に関する改善を図る。	① バス業務に関するアンケートを行い、1つ以上課題を改善する。	① アンケートが学校評価提出期より遅くなったため、課題改善まで至らなかった。	(評定)C (所見) 本年度内の業務改善には至らなかったが、職員の意見を収集することはできた。		アンケート結果に基づいて、早期から計画的に業務改善に取り組めるようにする。
		活動計画 ①-1 現状と課題を把握するために全教員にアンケートを実施する。 ①-2 課題を改善するための検討を行い、職員会議で提案する。	活動計画の実施状況 1-①現状と課題を把握するために全教員にアンケートを実施する。 1-②年度内の提案は難しいので、次年度に引き継ぐようにする。			